

¥0

Free

No.10  
2015 年秋号

# 散策 善通寺



祈りの炎があがる里  
善通寺から  
みえる世界遺産

ふる里の風景を歩く



空海の里を  
再発見する

特集

守護神に会う

必携の  
散策ガイド

金倉郷に湧出る円珍生誕の産湯（中央）



弘田川

金倉川

天霧山

弥谷寺

金蔵寺駅

金倉寺

榎湧 (永井の湧水)

甲山寺

曼荼羅寺

鷺井神社

下湧

筆の山

ひょうたん池

香色山

出釈迦寺

市民集いの丘公園

善通寺駅

旧偕行社

我拝師山

禅定寺

善通寺

四国学院大学

二頭湧

赤レンガ

金毘羅燈籠

王墓山古墳

大麻山

宮が尾古墳

地藏池

野田院古墳

葵の瀧

龍王社

琴平駅

金刀比羅宮

琴平山  
(象頭山)

# 善通寺市散策マップ

五岳山

善通寺

金倉寺

金倉寺と丸亀平野（飯野山より）

もう一人のお大師さんが生まれた善通寺市

金倉寺は第五代天台座主となった空海の姪の子、智証大師円珍ちしょう えんちんの生誕の地です。円珍は山林修行を重視する三井修験道しゅうげんの祖として知られます。比叡山や熊野で山林修行をした後、唐に渡って密教を修得し、天台密教を完成させました。唐より持ち帰った教典や法具を三井寺みいでら（正式には園城寺、大津市）に収蔵し、三井寺を修行道場としました。円珍には幼い頃より何尊もの守護神が現れ、生涯の重要な転機に円珍を守護されました。円珍生誕の地、金倉寺を巡り、その守護神を感じます。

# 守護神に会う

## 円珍生誕地コース

新羅神社しんら、訶利帝堂かりてい、入山大師像など独特な建物や彫像がならぶ金倉寺こんぞうじ。これらは、ここで生誕した円珍の生涯に深く関わっています。金倉寺を巡り、円珍の守護神を感じます。

コース  
紹介

### 円珍を守護する護法神の風景

金蔵寺  
駅

約 10 分

新羅  
神社

約 5 分

別格本山  
金倉寺

# 円珍生誕地 コース



## ①新羅神社

円珍に唐で密教を極め、その教典を三井寺に収蔵するように勧めた新羅明神を祀ります。三井寺の新羅善神堂と同尊で、琵琶湖西岸に帰化した新羅人の祖霊神と言われます。



道標

金蔵寺駅

スタート



## ②金堂(本堂)

現在の金堂は、1983年に湖東三山の西明寺の本堂(国宝)を模して建立され、参拝前に鳴らす鰐口の脇には念珠が下がっています。



念珠



## ③鐘楼

金倉寺の鐘楼は柱が長いので、梵鐘は非常に高い所にあります。



### かりてい ⑤訶利帝堂

円珍が5歳の時に金倉寺に現れ、仏道に入る円珍を守護すると約束した<sup>かりていも</sup>訶利帝母を祀ります。訶利帝母は、子どもを食べる鬼だった鬼子母神でしたが、釈迦に改心させられます。そのため、子どもと安産の守り神になりました。



八幡湧

### ④龍神宮

金倉寺脇には<sup>かなくらがわ</sup>金倉川の伏流水が湧き出た八幡湧があります。龍神宮はその水を引込んでいます。



### ⑥祖師堂と不動明王像

金色不動明王（黄不動）は、比叡山で修行中の円珍の前に現れ、密教を極めて衆生を導くように告げました。以後、円珍の危機を救います。



採灯護摩（金倉寺）



入山大師像



火渡り

## 金倉郷再発見

# 祈りの炎があがる里

### さいとうごま しゅげんどう 採灯護摩と修験道

金倉寺では、毎年9月の第1日曜日に三井修験道の先達衆が採灯護摩供を修めます。三人の修験者が清めの儀式を行った後、井桁に組んだ丸太に火を付けます。天高くのぼる炎の中に、人々の祈願や先祖供養の護摩木を焼べて、人々の救済を祈ります。人々の煩惱を焼いた後に、燃え残った灰の上を歩く火渡り（火生三昧）は、大日如来の浄火の中を渡ることを意味します。人々は、火渡りによって自らを浄化するのです。

護摩は、供物を焼いて煙にし、天上の神仏に捧げる密教の祈願法です。野外で井桁に組んだ丸太を燃やす護摩は、採灯護摩（

真言宗では柴灯護摩と書く）といい、修験道独特の護摩です。

修験道は、山や巨木などの自然を崇拝する山岳宗教と仏教（主に密教）が融合した日本独特の宗教です。山林修行によって験徳（超自然的な能力）を身につけ、衆生を導くことを旨とします。修験者（山伏ともいう）は、古来人々の願いを叶えるために験徳をもって祈ってきました。

千年以上にわたり人々の生活に深く関わった修験道ですが、明治政府によって一時廃止されたため衰退してしまい、その祈りは今日では特殊な儀式に映るようです。善通寺市の金倉寺では、現在もこの祈りの炎があがります。



不動明王 護摩木 (金倉寺)

## 不動明王と円珍

不動明王は、救いがたい人々を力ずくで仏道に導くために、憤怒の姿に身を変えた大日如来であると言われます。また、不動であることから山の神とも考えられ、山林修行をする修験者の信仰を集めました。

円珍が比叡山中で山林修行をしている時、不動明王が姿を現し、密教を究めて人々を導くように告げました。そのとき現れたのが金色不動明王で、それを写した画像を黄不動と呼んでいます。黄不動は、密教の教典を求めて唐に渡った円珍を様々な場面で守護します。他にも、青不動や赤不動が信仰されています。

金倉寺には山林修行をする山伏姿の智証大師円珍像（入山大師像）が立ち、その掌の上には利剣をかざした不動明王が立っています。

## ちしょう かなくらごう 智証大師が生誕した金倉郷

金倉寺は智証大師円珍の生誕の地で、近隣には産湯に使った井戸が保存されています。金倉寺は円珍の祖父和氣道善によって創建され、道善寺と呼ばれました。円珍が生誕すると、日本ではじめてここに訶利帝母が現れました。

円珍の死後、醍醐天皇が智証大師の諡号を贈ると、道善寺は金倉郷の名を取って金倉寺と改名されました。当時の金倉郷は、天皇の支援で大伽藍を構えた金倉寺を中心に隆盛したと伝わります。



智証大師降誕浴灌井



役小角像（金峯山寺）



那智滝と青岸渡寺（世界遺産）



金峯山寺（世界遺産）

### 修験道の聖地

2004年、修験道の聖地、紀伊山地にある寺院建造物や道が世界遺産に登録されました。インド発祥の仏教は日本に伝来すると、日本古来の神道と融合するものが現れ、修験道という独特の宗教が生まれました。紀伊山地は修験道の聖地で、千年以上にわたる宗教活動によって日本の仏教に大きな影響を与えたことが評価されました。

修験道の歴史は古く、奈良時代には全国各地に存在したと言われます。平安時代、空海や円珍らが密教をもたらすと、密教が修験道の中心的な役割を果たすようになりました。

### 二つの修験道

修験道の開祖と仰がれる<sup>えんのおづめ</sup>役小角は、紀伊山地の<sup>かつらぎ</sup>葛城、<sup>おおみね</sup>大峯、<sup>くまの</sup>熊野の山林で修行を重ね、鬼神を使役したと言います。また、吉野の<sup>きんぶせん</sup>金峯山で修行中の小角の前に<sup>ごおうごんげん</sup>蔵王権現が現れ、守護神になりました。円珍はこの小角を慕い、熊野の那智滝で千日修行を行ないました。

平安時代後期、熊野は阿弥陀信仰の聖地と考えられ、白河上皇がこの聖地を巡る熊野御幸<sup>ここう</sup>（熊野詣で）を始めました。円珍が開いた天台宗三井寺の修験僧が熊野御幸を案内する<sup>せんだつ</sup>先達を務めると、熊野の修験者を統括する熊野三山<sup>けんざんよう</sup>校校に任命されました。



## 世界遺産になった修行の聖地

世界遺産になった仏道修行の聖地があります。紀伊山地は、空海を含め、古くより仏教僧たちの修行の地で、修験道と呼ばれる日本独特の仏教が生まれた聖地です。空海、円珍、しょうぼう聖宝など讃岐出身の修行僧が、修験道の発展に大きな足跡を残しています。



筆の山（○は石鎚本教の奥行場）



参道に立つ役行者像



石鎚本教の奥行場（筆の山）

この職務により、熊野を中心に本山派ほんざんは修験が確立しました。一方、高野山や興福寺などの真言宗の修験者は役小角ゆかりの大峯山に集い、全国から集まる修験者を統率して当山派修験を形成しました。当山派は、丸亀市本島に生まれたしょうぼう聖宝が開いた醍醐寺（京都）を道場としました。

江戸時代になると、各地で生まれた様々な修験道は、幕府により本山派か当山派のいずれかに所属させられ、祈りを通じて人々の生活に深く関わっていきました。しかし、修験道を呪術的とした明治政府が、一時廃止したため、修験道は衰退しました。

## 善通寺市にみる修験の地

石鎚山いしづちは古くより山岳信仰の山として知られ、空海も修行の足跡を残しています。役小角が開山したといわれ、蔵王権現（石鎚権現）が祀られる修験道の霊山でした。明治の神仏分離令で、権現が廃止になったため、代わりにいすづちりのみこと石土毘古命が祀られる石鎚神社（石鎚本教）になりました。実は、この石鎚本教の行場が筆の山にあります。筆の山山頂付近にある絶壁に鎖が敷かれ、修験の行場になっています。参道には、板状の安山岩が崩れ落ちた岩屑が散乱しています。修験の香りが色濃く残る筆の山は大切にしたい風景の一つです。

## 大麻山キャンプ場

### もう一つの炎

地滑りでできたという大麻山のテラスに、キャンプファイヤー場が付設された大麻山キャンプ場があります。ここには、古くは古墳時代初期の前方後円墳、中世には野田院という山林寺院があったと言われます。現在は古墳公園を兼ねたキャンプ場が設置され、大麻山の自然を楽しむ人々で賑わいます。ここでは、祈りの炎ではなく、キャンプに参加した仲間をつなぐ絆の炎が上がります。



### 野田院古墳

野田院古墳は3世紀後半に築造されたと考えられ、前方後円墳の成り立ちを示す古い型式をとどめています。

## 季節がめぐる街の公園

### 庭園、ひとくちメモ（10）

円珍が中興した三井寺には天智・天武・持統天皇の産湯に使われた霊泉があり、のちに<sup>げんぎ</sup>嚴儀・<sup>かんじょう</sup>三部勸請の法水に用いる<sup>あかい</sup>鬺伽井になりました。そのため、御井（みい）の寺と呼ばれ、三井寺の名の由来になりました。

鬺伽井からは、今も湧水が滾々と湧き出ています。その流れの脇に、日本最古とされる石庭があります。手前より人、神仏、鶴、亀と配置され、神仙思想の理想郷である<sup>ほうらいさん</sup>蓬莱山を表していると言われます。



鬺伽井屋に施された彫刻の龍が夜な夜な琵琶湖に出て暴れるので、甚五郎が自ら龍の目玉に釘を打ち、鎮めたと言われます。

## 比べてウォッチ！



### 金倉寺と三井寺

金倉寺の訶梨帝堂と新羅神社に祀られる訶梨帝母と新羅明神の二尊は、三井寺ではそれぞれ護法善神堂と新羅善神堂に鎮座しています。新羅善神堂は、足利尊氏が寄進した最も古い建物で、国宝に指定されています。平安時代、源頼朝や足利尊氏ら源氏の祖と知られる源頼義が祈願をして以来、三井寺は鎌倉幕府や室町幕府の保護を受けてきました。頼義の三男義光は、新羅明神の前で元服し、新羅三郎と呼ばれました。

## 風景をたのしむまめ知識



### しょうろうぼんしょう 鐘楼と梵鐘

功德のために撞く梵鐘を吊るす鐘楼は、袴腰造や楼門など様々です。金倉寺の鐘楼は柱が長く、梵鐘は高所に吊られています。

三井寺には、近江八景の三井の晩鐘で有名な大鐘があります。他に、たわらのとうたひでさと 俵藤田秀郷がムカデ退治の礼に琵琶湖の龍神からもらい、三井寺に寄進したという梵鐘があります。その表面には、鎌倉時代初期に起きた比叡山僧徒による焼き討ちでついた無数の傷があります。三井寺の復興には、金倉寺から円珍作の多くの仏像が贈られました。

鐘楼は寺院の脇役ですが、さまざまな様式があります。功德の音を響かせる梵鐘には、しばしば伝説が生まれます。

持ち物リスト		
服装	登山グッズ	その他
<input type="checkbox"/> 帽子	<input type="checkbox"/> 地図	<input type="checkbox"/> 非常食
<input type="checkbox"/> 防寒着	<input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> 救急セット
<input type="checkbox"/> 長袖シャツ	<input type="checkbox"/> 飲料水	
<input type="checkbox"/> バックパック	<input type="checkbox"/> ビニール袋	
	<input type="checkbox"/> タオル	
	<input type="checkbox"/> ティッシュ	

### 散策の心得

- ・履きなれたシューズで出かけよう。
- ・自分のペースでゆっくり歩こう。
- ・暑い日には、帽子をかぶろう！
- ・飲み物も携帯しよう！
- ・車には十分注意しよう。
- ・ゴミは必ず持ち帰ろう。
- ・ペットの糞対策も忘れずに！



アクセス



バック・ナンバーは左のHP「散策 善通寺」より閲覧できます。

<http://shigakuweb.jindo.com>

制作・お問い合わせ

四国学院大学・四学ウェブ  
(shigakuweb@yahoo.co.jp)  
制作協力

善通寺市役所土木都市計画課  
(Tel. 63-6314)

参考文献

みちへや 遍路 2001

YUJ (金倉寺発行)

